

昨年のリベンジ

退職、結婚の年に初V

《第14回九州ミッドアマチュア選手権》

通算5アンダー 139

石塚 祥成（福岡雷山、28歳）



1年越しの思いを優勝という形にした。昨年のこの大会で石塚は最終日の前半のアウトを終了した時点で2位に3打差のリード。それも7、8、9番でバーディーを奪い、勢いに乗って後半のインに突入。しかし、ゴルフは簡単にはいかない。なんと43も叩いて、結局3位に沈んだ。

今回も同じ状況だった。最終日の前半が終了した時点で2位に3打差のトップで折り返した。ただ、今年は違った。昨年を反省し、3バーディー、1ボギーの34。2位に1打差のトータル5アンダー139でフィニッシュした。「このコースはフェアウエーも広いし、プレッシャーもなく、のびのびとやれた。ロングでバーディーを取って、その他はグリーンのセンター狙い。プラン通りのゴルフができました」。2日間でロングは8ホール。そのほとんどが2オン狙いで6個のバーディーを奪った。攻めるところは攻め、守るところは守る計画通りのプレーで初の「九州」というタイトルを手にした。

「もう1年経ったんですね。この1年は早かった。やっと勝てました。両親や弟（プロゴルファーの石塚祥利）からも『勝ってこい』と言われていました」との言葉にも実感がこもる。

もちろん、優勝するには技術の裏付けがある。昨年の日本ミッドアマチュア選手権に出場した際、アマチュア界で有名な水上晃男（鷹之台）からアドバイスを受けた。水上は日本ミッドアマ、日本シニア、日本社会人ゴルフなど数々のタイトルを獲得している。スイングのことを聞いたところ、水上から「スイングは始動で決まる」との一言をもらう。それから始動を意識して練習し始めると、ぼらつきが少なくなったという。「右にも左にも行っていたのが、片方が消せるようになった」。ある程度、自分の意識の中でボールを操作できるようになったわけだ。それは数字が示す。フェアウエーキープはショートホールを除く2日間28ホールで21ホール、パーオンしたのは2日間36ホール中28ホールとかなり高い確率である。こうなると大きなミスも減る。



今年の変動の1年。6月にそれまで勤めていたセンコー（大阪）を退職し、7月にはみなみ夫人（26歳）と結婚。現在は兄・祥平さん（30歳）の経営するジェラートの「ココジェラート」（福岡）で営業部長として働く。今大会前週はシンガポールでの展示会に出張した。「夏は忙しいですね。これからは少し余裕ができますが」。仕事の合間を縫ってのゴルフ、そして全国大会へ。「上位へ行くにはショット次第ですね。まだ1カ月ありますから」と11月の本戦を見据える。会場となる高室池GC（兵庫）はセンコーに勤務して頃に10回ほどラウンドしたという。コースのことは熟知している。石塚は得意にはしていないようだが、それまでとはショットの精度が各段に上がったので期待はできる。

《知覧CC》

